

ごけん

平成 23 年

秋号

もくじ

- ごけんインタビュー 梶田叡—— 2
- ごけん情報板—— 4
- 採点室から—— 5
- 知らなかった！日本語の歴史③—— 6
- いろんなところで 日本語検定！— 7
- 受賞団体・受賞者の声—— 8
- にほごん にほんご劇場 —— 10
- 第3回日本語大賞 作品募集—— 11
- 受検案内／プレゼント・クイズ— 12

日本語検定が 文部科学省後援事業に

7月1日より、日本語検定は文部科学省の後援事業となりました。

日本語検定 実施予定

平成 23 年度第 2 回 (通算第 10 回)

[一般会場] 11月 12日(土)

[準会場] 11月 11日(金)・12日(土)

[申し込み期間] 8月 1日(月)～10月 14日(金)

後 援：文部科学省
日本商工会議所
日本経団連事業サービス
全国連合小学校長会
全日本中学校長会
全国高等学校長協会
全国高等学校国語教育研究連合会

特別協賛：読売新聞社

協 賛：時事通信社／東京書籍



日本語検定公式キャラクター「にほごん」

特定非営利活動法人

日本語検定委員会

初心忘れず、さらに信頼高める努力を

—文科省の後援名義使用許可を受け—

文部科学省が7月1日、日本語検定委員会が主催する「日本語検定」を「後援事業」とすることを通知しました。春、秋の年2回全国で実施する日本語検定も、今年でスタートから5年目の節目の年に入り、既に約36万人が受検。11月実施予定の通算10回目の検定は、文部科学省後援事業となって初の実施となります。

そこで、日本語検定委員会・梶田叡一理事長に、文部科学省の後援名義使用許可を受けた感想などをうかがいました。（インタビュー：時事通信社編集委員 牧 俊朗）

—7月1日付で、日本語検定が文部科学省の後援する検定試験となりましたが、

検定事業の質の向上と信頼性の確保に向けて積み上げてきた努力の結果が認められたものと受け止めており、大変うれしく思います。数ある民間の検定事業について、文部科学省がその評価のガイドラインを策定し、後援事業を絞り込む動きのある中でのことです。社会的にもこれまで以上に信用、信頼感が増すと思われま。初心を忘れずにさらに努力しなければならぬと思います。

日本語検定は平成19年に東京書籍の社会貢献事業として創設されました。その後、公平性、公正性を確保するために、事業主体を独立した公的な法人にすることで、日本語検定委員会を特定非営利活動法人（NPO法人）とすることを決め、平成21年に東京都から認証されま

した。これに伴って、検定事業の運営面においてもさまざまな改善の努力を重ね、申請時には受検者も累計で32万人という実績に達していましたので、これらの点が総合的に評価されたと思います。

—社会的信用、信頼感が増すということですが、具体的にはどうということでしょうか。

これまでも、信用、信頼感や透明性などを高めるために内部的な事業改善を重ねてきたわけですが、これが文部科学省という公的機関に認められたということの持つ意味は大きいと思います。

後援事業として認められたということは、具体的には以下の二つの面で評価された、と考えられます。ひとつは、検定事業の内容に関することです。検定試験の出題内容や採点、合否判定などがキチッ

日本語検定委員会 理事長

梶田叡一



としていると認められたということです。

もうひとつは、事業主体であるNPO法人日本語検定委員会の業務運営が公正に執行され、内部チェック体制もしっかりしており、社会的に信用に足り得る組織であると認定されたということです。

今後は、文部科学省の後援決定を受けて、同省が作成した検定試験の自己評価シートに従って自己評価を行い、その結果に基づく改善案を理事会に報告する評価委員会を設置することにしています。

—文部科学省の後援ということで、より公益性が求められるようになると思いますが。

先ほども少し触れましたが、これまでも公益性ということを強く意識してきました。今後もその方向は変わりません。読売新聞社や時事通信社、さらには日本商工会議所、日本経団連事業サービス、東京書籍などのメディアや大きな経済団体、企業が協賛・後援という形で参加してく

ださっており、こういったことも社会から信頼を得られる基盤になっているともいえるでしょう。

学校教育との関係では、新しい学習指導要領は「言葉の力」を重視しています。言葉というものは単なるコミュニケーション・ツールではなく、認識や思考の道具として知性の土台になるものと位置付けています。そういう「言葉の力」の重視という流れの中で、文部科学省が日本語検定の公益性を認めて後援名義の使用を許可したことは、非常に大きな意味があると考えます。

ひとつの言葉で相手を絡め取る反知性的な政治をワン・ワード・ポリティックス（一言政治）と言いますが、これに対して、しっかりとした言葉で公正できめ細かい議論をして理性的な判断をしてコンセンサスを創っていくという動きが広がってきています。これはまさに民主主義社会の基本に関わるものです。日本語検定もこうした社会の流れに沿っていければ、と考えています。

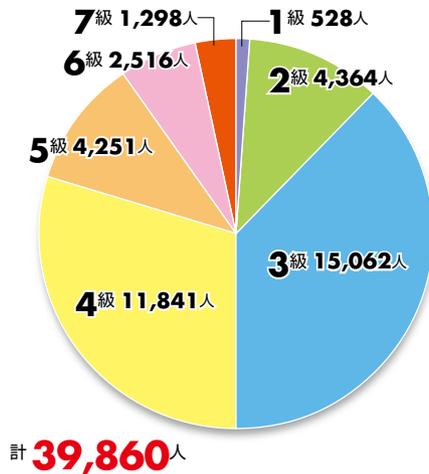
梶田 叡一（かじた えいいち）
1941年（昭和16年）島根県松江市に生まれ、鳥取県米子市で育つ。京都大学文学部卒業。文学博士。大阪大学教授、京都大学教授などを経て、環太平洋大学学長。中央教育審議会副会長。著書多数。

ごけん情報板

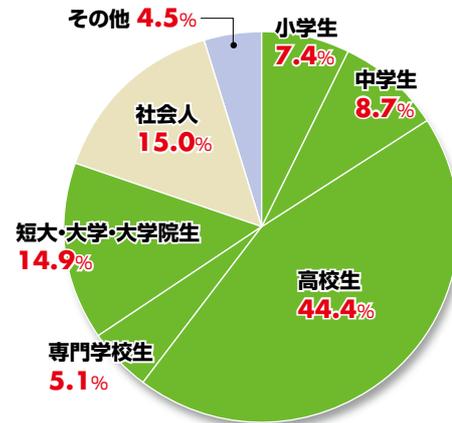
日本語検定もおかげさまで5年目を迎えました。このコーナーでは、今年6月に実施いたしました、平成23年度第1回（通算第9回）日本語検定について、各級の受検者数などのデータをご紹介します。

◎平成23年度第1回（通算第9回）

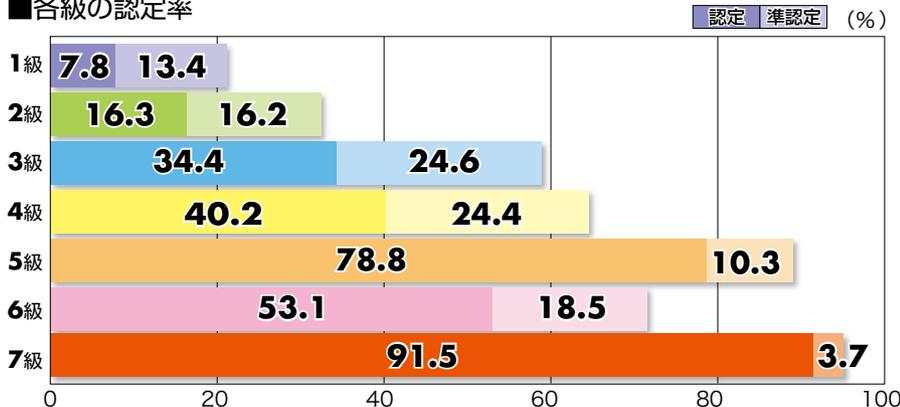
■受検者総数と級別受検者数



■受検者の学校・所属別割合



■各級の認定率



採点室から

23年度第1回
の問題より

このコーナーでは、毎回、正答率が比較的低かった問題を取り上げています。どの級でも正答率が低いのは、「漢字」に関わる問題です。

■3・4級では、パソコンで文を入力したときの単語の変換ミスを指摘する（誤っている言葉の正しい書き表し方を記入する）問題が出題されています。例によって、いくつかの問題をご紹介します。

- 「一部地域への海外渡航者に対して、感染症の予防摂取が勧奨されている。」
(3級問題—正答率24.2%)
★「予防摂取」が「予防接種」となるのが正しいのですが、「勧奨」を誤りとして「勸」や「奨」の字を変えてしまう誤答も目立ちました。
- 「本学部では論文の提出後、内容に関する口頭指紋を実施します。」(3級問題—正答率10.2%)
★「口頭指紋」が「口頭試問」となるのが正しいのですが、「諮問」や「質問」とした解答も多くありました。
- 「母は間接が痛むと言って、整形外科へ診察してもらいに行った。」(4級問題—正答率21.0%)
★「間接」は「関節」が正しいのですが、この言葉がおかしいと分かっていても、正しく表記することのできなかつた人が多くいました。
- 「道路の格調工事によって、駅周辺の景観は一変した。」(4級問題—正答率35.5%)
★「格調工事」の「格調」が誤っているのですが、この問題も上の「関節」と同様に、「拡張」と正しい漢字を書くのは難しかったようです。

■1・2級では、□に入る適切な漢字一字を書き、その言葉を適切に用いている文を選ぶという問題が出題されています。その中で難しかったと思われる問題は、次のようなものでした。

【小□翼翼】(1級問題—正答率23.4%)

- ① 敗軍の将は、小□翼翼として世界制覇を夢見ている。
 - ② あの男は、小□翼翼のサラリーマンで一生を過ごした。
- ★(誤答例)「小休翼翼」で②。(正答)「小心翼翼」(しょうしんよくよく)で②。

【電□朝露】(1級問題—正答率23.2%)

- ① 電□朝露の虚しさを悟り、仏門に入る。
 - ② 電□朝露の早技で、獲物を仕留める。
- ★(誤答例)「電撃朝露」で②。(正答)「電光朝露」(でんこうちょうろ)で①。

【□兵急】(2級問題—正答率4.8%)

- ① この曲は、速いところと遅いところの□兵急をつけたリズムがとても心地よい。
 - ② 彼女と結婚するかしないかはこれからの人生に関わることなので、□兵急に結論を出せと言われても困る。
- ★(誤答例)「緩兵急」で①。(正答)「短兵急」(たんぺいきゅう)で②。

【不□転】(2級問題—正答率22.2%)

- ① 社運をかけたプロジェクトだから、担当者全員が不□転の決意で臨んでほしい。
 - ② ジャン・シベリウスはフィンランドが生んだ、北欧を代表する不□転の作曲家だ。
- ★(誤答例)「不出転」で②。(正答)「不退転」(ふたいてん)で①。

最後の二つ、「三字熟語」は盲点になっているのか、あまり出来が良くありませんでした。

ここで取り上げた問題に限らず、どの級でも、正しい漢字を書くことが一つのハードルになっていることがうかがえました。

日本語に「恋」はあるけど「愛」はない

浅川 哲也

日本語の語彙はその出自から、和語（純粋な日本語）・漢語（中国語）・外来語（中国語以外の外国語）・混種語（和語・漢語・外来語を組み合わせた語）に分けられます。漢語がかつて外国語であったという事実は現在ではあまり意識されていません。しかし、漢字の音読みは当時の中国語の発音を日本語の中にとり入れた読みで、訓読みは漢字の意味に日本語をあてた読みです。

「愛」は音読みです。音読みをするということは、「愛」はもともと中国語であって日本語ではないということになります。『万葉集』（8世紀）には、「愛」の付く語彙として「愛情・愛心・好愛・感愛・薄愛・憐愛」などがありますが、いずれも詞書や左註の漢文の中にある漢語です。万葉歌の中には「愛」は一例も使われていません。

漢語の中には、サ行変格活用動詞の「する」（古典語では「す」）を接続させて、漢語サ変動詞になったものがあります。「愛す」は漢語サ変動詞です。平安時代の初期までは、「愛す」は漢文訓読体の文体に使われる語彙でした。平安時代の代表的な和文体資料である『源氏物語』（11世紀初）には、漢語サ変動詞「愛す」は一例もありません。

「愛」は漢語（中国語）ですが、「恋」は日本語（和語）です。「恋」はハ行上二段活用動詞「恋ふ」の連用形が名詞になったものです。動詞「恋ふ」は形容詞形「恋し」や、サ変動詞「恋す」を派生させていきます。現代日本語の「恋しい」・「恋する」は古典語の「恋し」・「恋す」が変化したものです。『万葉集』の歌には、動詞「恋ふ・恋す」や形容詞「恋し」がさかんに使われています。

古に恋ふる鳥かもゆづるはの御井の上より
鳴き渡り行く〈巻2・111〉

恋するに死にするものにあらませば我が身
は千度死に反らまし〈巻11・2390〉

漢語「愛」は、動詞「愛ふ」とか形容詞「愛しい」のような語形を生み出すことはできません。「愛」の派生語としては、形容詞「愛らし」がありますが、これは「愛」に推量の助動詞「らし」が変化した接尾語「らし」が接続した語です。「らし」が接尾語として使われるようになるのは鎌倉時代以降ですので、「愛らし」は奈良時代以前からある日本語ではなく、後代に発生した新しい語形です。「わらはが養ひ姫は、御みめの美しくおはして、御目は細々として愛らしくおはするぞや」『沙石集』（13世紀末）

英語では、親しい間柄の人どうして気軽に“I love you.”と言っていますが、日本語では相手に面と向かって「愛してる」と言うのはどこか改まっていて照れくさい感じがします。日本は感情をあまり表に出さない文化であるという理由もありますが、漢語に由来する「愛する（愛している）」は、心情を表す言葉としては少し言いにくいのかも知れません。

浅川哲也先生の新刊が出ました！

「助詞の「は・へ・を」はなぜ実際の発音と異なるか」など素朴な疑問を、日本語の歴史からユニークに読み解きます。



定価：1,680円
(本体1,600円)
(東京書籍刊)

あさかわ てつや／首都大学東京 准教授。
専門は日本語学・日本語史。
博士（文学）



平成23年度第1回（通算第9回）日本語検定は、国内110、海外16の一般会場と、学校や企業等を会場とする741の準会場で実施いたしました。

3月の東日本大地震の影響による、社会的な緊張が続く中で行われたにも関わらず、39860名に受検いただきました。

今回は、その中から2つの会場の様子をご紹介します。

海外でも日本語検定

ソウルなど韓国9都市で実施

イギリス、台湾などに続き、今回初めて韓国でも日本語検定が実施されました。ソウル、釜山、大邱など9都市14会場で行われ、日本語を学ぶ大学生らが5級から3級に挑戦しました。

ソウルの城西中学校の会場で3級を受検した大学1年生の男性（20）は「日本語を勉強して6年目だが、やればやるほど難しい。頑張って、日本語を使える仕事に就きたい」。同じく3級を受けた女性（27）は「出版関係の仕事で8割ぐらいは日本語を使っているが、慣用語や四字熟語が難しかった」と語りました。

韓国の日本語学習者人口は推定90万人とされています。今回の検定を実施したYBM社の尹徳善部長は「大学入試や就職のためだけでなく、日本のアニメや音楽が好きになり、日本語を学び始める人も多い」と話していました。



韓国で使われたポスター

「磨いた日本語でお客様に接したい」

銀座のクラブで団体受検

日本を代表する繁華街、東京・銀座のクラブでも団体受検が行われました。そのど真ん中の6丁目にあるクラブ「桜本」では、同店の呼びかけで、従業員やその家族、友人のクラブ経営者ら17人が2級、3級を受検しました。

同店での受検はこれで2回目。世話人で自らも受検した共同経営者の男性は「言葉一つでお客は愉快になったり、不愉快になったりもする。きちっと磨いた日本語でお客様に接することができるようになるきっかけにしたい」とコメント。

また、昨年3級に合格し、今回2級に挑戦した女性は「お客様に勧められたのがきっかけ。おもしろかったので過去問題も解いた。できるだけ上の級を目指したい」と意欲を示していました。

開始前はリラックスムードでしたが、開始の合図とともに店内の雰囲気は一転。ピーンと張りつめた緊張感が漂いました。

言葉がこころをひらく

京都光華中学・高等学校 高田 正城 先生



人間は人と人との関係の中でしか生きることが出来ません。「仏教精神による女子教育」を建学の精神とする本校では、その人間関係が希薄になりつつある現代を生き抜いていく女性に課せられた最大のテーマが、「真のコミュニケーション能力を身に付けること」であると考えています。

例えば将来の子育てにおいて、正しい知識や感性を子どもに伝えることはとても重要なことです。しかしながら過剰な情報が氾濫し、人を傷つけることに無頓着な言動が飛び交う現代社会の中でそれを全うするためには、「人として美しく生きてほしい」という親の純粋な、透き通った願いと共にそれを正しく伝えるための言葉の存在が何よりも大切なのだと思います。

各種ある国語関係の検定の中で、本校が日本語検定を採択した理由はまさにそこにあります。語検では、6つの領域から幅広く出題されます。例えば漢字だけ突出した知識を誇っても、他分野とのバランスが取れていなければ合格できない点が語検の難関でもあり、何よりの特長と言える点ではないでしょうか。だからこそ合格(認定)の価値も高くなるのだと思います。

本校では、選択科目の中に語検の対応講座を設定し、毎年より多くの受検者、合格者が出るよう取り組んでいます。正しい知識に裏打ちされた本物の言葉こそが、人のこころの扉をひらくものという願いをこめて……。

新時代の合格力は日本語力から

個別指導塾 TESTEA 塾長 繁田 和貴 先生



近年の中学、高校、大学入試では、一昔前まで主流だった一問一答型の出題は減少傾向にあり、そのかわり数十字から数百字の記述を求められるような出題が増えています。

このことに象徴されるように、近年の日本の教育は、思考取束型の教育から思考発散型の教育へとシフトしつつあります。柔軟な思考で自立して生きる力が求められる世の中においては、今後もこの流れが続くと予想されます。つまり、自由記述の中で、正しい日本語を用いて表現することのできる能力が欠かせないのです。しかし、表現力・語彙力・言葉づかいなどの能力は、同年代の子どもたちの間で思いの

めっけもの、日本語検定

明知大学校 日語日文科 張 雄善 (チャン ウンソン) さん



日本語検定に挑戦したきっかけは大したことではありません。私は大学で日本語を専攻としています。我が学科には日本人の先生が一人いて、親しくさせて頂いています。ある日、その先生が何気なく「雄善さんはいかの検定を受けたら良いと思う」と言ったことがあります。その時、ぱっと思い付いたのが「日本人が受ける日本語試験はないのか」でした。それまでは JLPT と JPT しかなかったことがありませんでした。ネット検索して日本語検定を知ったのが今年の年明けです。当時は韓国で行われていなかったため、受検は見合わせるしかないと考えていたのですが、2ヶ月ぐらい経ってから JPT のサイトにアクセスして、偶然今年から韓国でも行われることを知り、6月に3級を受けました。(※韓国会場のレポートはP7をご覧ください。)

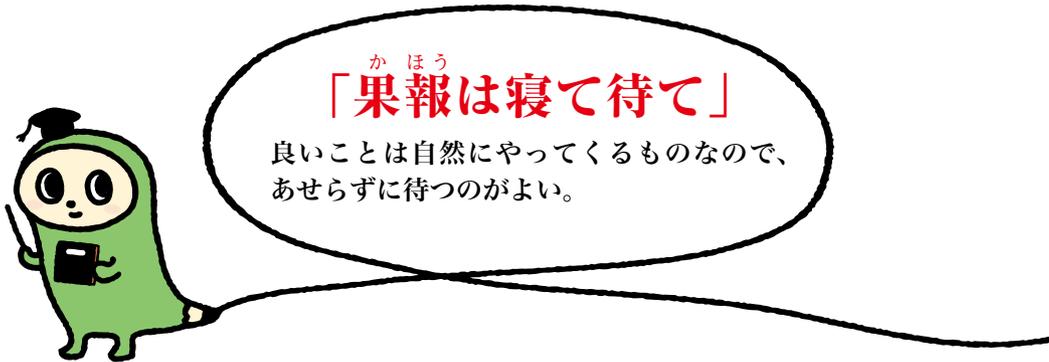
今回の手記を書くにあたって、今年の「ごけん」春号に載った「受賞団体・受検者の声」を拝読しました。どの方もとても素晴らしい御意見でした。特に印象的だったのは「正しい日本語を使える力」の重要性を共通しておっしゃっていたことです。確かに適した言葉を適した状況で使えることが最も重要だと思います。ですが、外国人としてはそれだけではなく日本語検定に「実際に使われている正しくない日本語」も幅広く扱ってほしいです。日本に住んでいなければ、日本語に触れることが極めて少なくなるのです。日本語検定がそれを埋めてくれたらいいなと思います。

思いがけず3級に合格し、手記をお書きする機会も頂けて嬉しい限りです。これで満足せずにもっと励みたいと思います。

ほか開いている現状があります。私は教育現場でたくさんの生徒に触れていますが、拙い表現を繰り返す生徒を見ると、各教科のディティールを学ぶことも大切ですが、それだけでなくもっと根幹を同時に鍛えることの必要性をとみに感じるのです。それが、日本語力の強化です。

日本語力を磨くことは教養として大切なだけでなく、入試で求められる能力が変わりつつある現代においては、合否を左右すると言っても過言ではありません。そこで私も、受験のプロとして日本語検定に挑戦してみました。結果は…、合格点スレスレ、なんとか面目を保つことができた次第です(笑)。良質ですが手ごわい問題が多く、意外と日本語を知らないものだと改めて思われるいい機会となりました。実際に受けた感触からも、日本語検定が子どもたちの学力アップに果たす役割は大きいと思います。

にほんご にほんご劇場



第3回 「日本語大賞」 作品募集のお知らせ

日本語検定委員会が主催する「日本語大賞」は、日本語をテーマにしたエッセイ、
作文を広く募集し、優れた作品を表彰するコンクールです。

第3回のテーマは、「人と人をつなぐ日本語」です。

- 募集期間：平成23年8月1日(月)～9月30日(金) *当日消印有効
- 主 催：特定非営利活動法人 日本語検定委員会
- お問い合わせ・作品送付先：日本語検定委員会 日本語大賞係
〒114-8524 東京都北区堀船 2-17-1 Tel. 03-5390-7472
contest@nihongokentei.jp <http://www.nihongokentei.jp/>

TOPPAN

印刷博物館。
ここには、人類の知と創造への
エネルギーがあふれています。

printing
museum Tokyo
印刷博物館
<http://www.printing-museum.org/>

〒112-8531
東京都文京区水道1丁目3番3号
トッパン小石川ビル
TEL: 03-5840-2300(代)

トッパンは、印刷文化の普及と、日本語力の向上に取り組んで参ります。

ひとり、ひとりに情報のカタチを。

ひとり、一人に、「伝える」こと。

一人、ひとりに、「伝わる」こと。

明細票や宅配伝票など
誰もが利用しているビジネスフォーム。
私たちは、ビジネスフォームの
トップメーカーとして情報をデザイン
することで社会と繋がっています。

トッパン・フォームズ株式会社
本社 〒105-8311 東京都港区東新橋1-7-3 TEL.03-6253-6000 <http://www.toppan-f.co.jp/>

TOPPAN FORMS

平成23年度 第2回 日本語検定 受検案内

- [一般会場] **11月12日(土)**
[準会場] **11月11日(金)・12日(土)**
[申し込み期間] **8月1日(月)～10月14日(金)**
[実施都市] 全国の100都市以上で実施予定

[受検級の目安と受検料]

受検級	受検料	社会人	大学生	高校生	中学生	小学校 高学年	小学校 中学年	小学校 低学年
1級	6,000円							
2級	5,000円							
3級	3,500円							
4級	2,000円							
5級	1,500円							
6級	1,500円							
7級	1,400円							

※1級の受検には、準1級または2級認定が条件となります。

公式ホームページ <http://www.nihongokentei.jp>

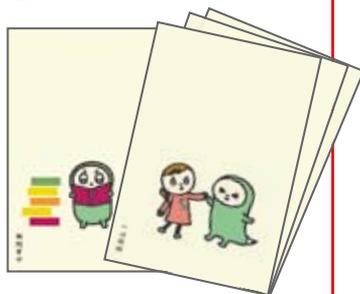
プレゼント・クイズ

問題：「にほんご にほんご劇場」で取り上げたことわざは何でしょうか。○の部分¹を補って完成させてください。

『果報は○○待て』

抽選で5名様に、オリジナル『にほんご絵はがき』セットをプレゼントいたします。はがきに、クイズの答えと、お名前、性別、年齢、ご住所、ご連絡先(お電話番号またはメールアドレス)を明記のうえ、日本語検定委員会までお送りください。平成23年12月31日の消印まで有効です。

当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます。



(応募の際の個人情報は、本プレゼント以外では使用しません。)

質問をおよせください！

日本語に関する質問を、お手紙やメールで、日本語検定委員会「ごけん質問箱係」までおよせください。

いただいた質問の中から、日本語検定委員会・研究主幹の川本信幹先生がお答えします。

*ご質問は、日本語検定を受検された方か、受検を検討されている方に限らせていただきます。

*日本語に関する質問以外にはお答えいたしかねますので、ご了承ください。

メールアドレス

info@nihongokentei.jp

特定非営利活動法人

 **日本語検定委員会**

〒114-8524 東京都北区堀船 2-17-1

【お問い合わせ先】 **0120-55-2858**

<http://www.nihongokentei.jp>